

巻頭言

校長 佐竹 卓

本校は、明治28年に、函館尋常中学校として創設され、その後、旧制函館中学校の時代を経て、昭和25年に現在の北海道函館中部高等学校となり、幾多の変遷を経ながら、創立125年を迎えた道内屈指の伝統校です。

本校の生徒は高い基礎学力を有しており、地域や保護者からの期待が大きい一方、1学年での科学的リテラシーの定着度や学年進行に伴って身に付けるべき「論理的思考力」、「言語的表現力」、「情報発信力」に課題を抱えている現状があります。

そのため、こうした現状を踏まえ、今年度よりSSH校として指定を受けたことを契機に、本校の伝統を継承しつつ、教育内容・活動の充実・発展を図り、課題の克服に取り組んでいるところです。

本校が研究開発課題として掲げているのは、「科学的リテラシーを備え、地域及び世界をイノベイトする科学技術人材の育成」です。これを達成するため、「北海道を牽引するイノベーター」、「グローバルな視点で新たな価値（解決法）を生み出すサイエンス・グローバルリーダー」、「函館・道南地域の科学技術系研究をリードする人材」を、養成する人物像として設定しています。その養成につながる「傾聴力・思考力・協働力・先見力」の4つの資質・能力「函中コンピテンシー」について18の力を設定しています。

4つの資質・能力及び科学的探究心を育成するため、理科・数学等を融合した学校設定教科「SS研究」、学校設定科目「SS物理基礎」等を設置し、課題研究を中心としたプロジェクト学習を実践する教育課程の研究開発に取り組んでいます。

また、先進的な科学技術系研究活動を行うSSコースを設置し、学校設定科目「SS特講Ⅰ～Ⅲ」において、大学や研究機関等と連携し、高い科学的リテラシーを持ち、新たな価値を創造する力を育成していきたいと考えています。

しかし、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による学校閉鎖や、感染防止のためのさまざまな活動の制限等があり、フィールドワークを計画通りに展開することができませんでした。6月に入ってようやく函館近郊のラムサール条約登録地でもある七飯大沼国定公園の環境調査等を行い、課題の設定や情報の整理・分析・考察に取り組み、そのまとめとしてポスター発表を9月に行うことができました。発表当日には、運営委員の先生方から、仮説の立て方や長期的多面的なデータの必要性をはじめ、コロナ禍での探究活動の進め方についても多くのご指摘をいただきました。生徒ばかりではなく、私たち教職員も多くのことを学び、それを今後の本校の課題研究の取組に活かしていきたいと考えています。

結びに、本校SSH事業の推進にあたり、さまざまなご支援とご協力をいただきました文部科学省、科学振興財団、北海道教育委員会、運営指導委員の皆様をはじめとする関係機関の皆様にご心より感謝を申し上げます。本報告書をお読みいただいた皆様には、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。